

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874700426		
法人名	かすみ福祉サービス有限会社		
事業所名	グループホーム赤とんぼ		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区守柄1351番地		
自己評価作成日	平成24年6月1日	評価結果市町村受理日	平成24年8月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2874700426&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	〒670-0955 姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成24年7月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 利用者が寝たきり状態になっても、介護支援を行う。* 長期記憶の保存維持を行う。* 口腔ケアに力を入れます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然に恵まれた環境の中で昔ながらの木造家屋を生かした家庭的な事業所である。管理者が利用者と多く関わりを持ち、認知症の豊富な知識を生かし、職員とコミュニケーションを取りながら、事務的にならないように気を配り、利用者に温かい介護を行っている。職員も事業所理念を理解し、管理者とともにアットホームな介護を行っている。職員の定着率がよく、事業所内の雰囲気も明るく、仲が良い。利用者のレベル低下も見られる中で優しい声かけをし、利用者の残存機能を生かされるような環境を考え、実践している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	充分ではありませんが、概ね理念を共有していると思います。	管理者・職員とも理念を意識し、ケアにあたっている。個人を尊重し、地域と共生しながら、利用者の残存能力を活かした介護を実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	最近、歩行出来る人が少なく来ていません。	近所の方が、採れたての野菜を持ってきて下さり、日常的な関係作りが出来ている。近隣の方とのつきあいを大事にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会講演を1回行いました。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2回です。小規模多機能は、香美町福祉計画策定無しのため、断念いたしました。	元役場職員だった方に運営推進会議に参加してもらうことを検討しており、開催に向けて準備している。	昨年から運営推進会議開催の回数を増やすように取り組み、本年度は地域の役場OBを会議の中心委員にした。サービスのより一層の向上に活用できるよう期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	全くできていません。	地域とのつきあいの中で市職員との関わりがあり、介護の日常を知ってもらっている。管理者の人望で市町村と協力関係が、築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠だけは、しています。	身体拘束についての知識を職員と深めている。玄関の施錠について今後、職員が多い時間帯の玄関開放を検討している。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	最近、行いました。	管理者が、虐待防止の講習を行う講師の経験者であり、職員に伝えている。職員も虐待しない介護を理解しており、防止に努めている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアー会議で行いました。	成年後見制度についての知識を持っており、外部研修も受けている。以前、成年後見制度を活用されている利用者の依頼の相談があった。	管理者の幅広い知識を活かし、職員の方にも是非、権利擁護に関する制度を学ぶ機会を持って頂き、活用できることを期待したい。
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に行っています。	契約時に金銭の話と退所に至る場合の相談に重点を置いて利用者とその家族の要望を聞きながら、契約の説明をしている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	積極的に行っていません。	定期的な家族の訪問があり、その時に利用者の様子を家族に報告するようにしており、家族からの意見を抽出するようにしている。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、相談しています。症状の急変が多いです。	管理者が、利用者に関わる時間を多く持ち、職員とも連携し、介護にあたっている為、信頼関係が出来ている。職員も意見や提案を挙げやすく、運営に反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心の機会は、あまり設けていません。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量は把握しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行っていません。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	レクをしながら、耳を傾けています。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などを利用して、耳を傾けています。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスは利用していません。家族の要望、注意すべき事項について話し合いを行っています。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にそのような関係を築くように努めています。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なかなか困難ですが大切なことと思っています。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係は限られています。	利用者の馴染みの関係は、把握している。利用者の帰宅願望で自宅に帰りたいと希望があれば、積極的に自宅に行く支援をしている。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	寝たきり以外の人を除いて、支え合う気持ちを持つように心がけています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行っていません。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まあまあ、出来ているとおもいます。	利用者の気持ちの汲み取り、目を見て一人ひとりの思いを感じ取るようにしている。利用者が希望している事は、可能なかぎり、期待に応えるようにしている。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用者の故郷を訪れ、お寺・小学校・山・川などを把握するよう努めています。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	絶えず観察していますので、把握をしているつもりです。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを重視して、努力しています。	一週間ペースで利用者のモニタリングを行い、日々の変化を記録したものに目を通し、介護にあたっている職員の意見も交えて利用者にあつたケアを検討している。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ていると思います。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化は出来ていません。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていません。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	充分できているとおもいます。	本人・家族の希望のもとにかかりつけ医を聞いて受診しており、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ていません。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っています。	利用者の様子観察に気を配り、急変事は、早急な病院受診を心掛けている。入院時の相談や情報提供ができるように準備している。家族に早急な連絡が出来るように連絡網を作っている。	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは、行っています。	終末期にむけての話し合いを家族と行い、重症化した場合は、スムーズな病院受診ができるような支援を行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	担当者がおり、担当者中心に行っています。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との応援体制は不十分です。	各部屋にスプリンクラーの取り付けを行った。避難訓練は、LP業者立会いのもとに行い、近隣の方にも参加して頂いている。災害時の避難先は、受け入れをお願いしている施設がある。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っています。	一人ひとりの尊重は、理念にも掲げており、大事にしている。プライバシーを損ねず、温かい言葉かけや家族的な介護を行っている。	
37			利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ぐらいです。		
38			日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にしています。		
39			身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院に通院しているときだけです。		
40	(19)		食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	オヤツの分配が主です。	利用者の食べたい物を聞き取りしながら、その日にメニューを考え、調理している。ご近所から頂いた新鮮な野菜を取り入れている。	
41			栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保はなかなか困難です。		
42			口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2人を除いて、朝・昼・夕とウガイを行っています。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく、そのように努めています。	利用者の癖を把握し、普段と違った様子を見逃さず、トイレのサインを見極めている。便秘していないか気を配っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やヨーグルトなどを飲用しています。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設の都合が中心です。	週2回入浴している。入浴介助を行う職員は、曜日で決まっており、利用者に負担がないよう、配慮している。入浴後、利用者に喜んで頂いている。	レベルが低下した利用者や入浴拒否の利用者も楽しく入浴できる方法を考え、話し合う機会を持つ事が望まれる。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自主性にまかせていますが、徘徊が激しい人は困難です。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が支援しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物など支援していますが、まともに歩行出来るのは1人ぐらいです。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩とドライブ程度で、冬期間は全くできません。	病院受診で外出する事が多く、その際に、近くのお寺に訪れたり、利用者が通っておられた小学校や近くの山と川にも寄り、気分転換を行っている。	外出は、病院受診のみとなっている。外出には危険も伴う為、戸外に出る機会も減っているが、安全に外出できる支援を検討し、今後のケアに生かして頂くことが求められる。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していません。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ません。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	充分、出来ているとは言えません。	共有のリビングは、利用者全員で食事が取れるテーブルが置かれており、アットホームな雰囲気である。大きい窓には、外からの光が直接入らないようにすだれをかけており、工夫されている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分とは言えません。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	概ね、工夫していますが、タンスの中にしまいいんだりして、見た目は乱雑に写ります。	部屋の間取りが全室違っており、窓からは畑が見えている。ベットやタンスの位置に配慮し、伝い歩きの利用者が動きやすいように工夫している。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由にさせています。		